国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

中部運輸局

平成21年 1月13日発行

中部地方における最近の運輸の動き

速報値版

〒460-8528 名古屋市中区三の丸2－2－1
中部運輸局　交通環境部　消費者行政・情報課
TEL 052-952-8047

平成20年11月の運輸の動向＜速報値＞

分類		項目	実績	前年同月比(%) 9月	10月	11月
旅客輸送指標	鉄道	名古屋鉄道	29,205 千人	2.8	0.5	△ 0.1
		近畿日本鉄道	8,635 千人	△ 7.7	△ 0.8	△ 1.5
		名古屋市交通局	35,844 千人	2.7	0.8	△ 1.1
		上記3事業者 計	73,684 千人	1.4	0.5	△ 0.7
	乗合バス	管内8社	14,544 千人	0.5	3.1	△ 0.7
		名古屋市交通局	9,499 千人	5.5	2.7	0.1
	うち高速バス	管内8社	136 千人	5.5	13.4	14.3
	貸切バス	管内8社	762 千人	△ 8.4	△ 0.6	△ 7.5
	タクシー	名古屋地区（22社）	1,398 千人	△ 6.2	△ 5.7	△ 10.4
	フェリー	管内4社	93 千人	△ 16.2	△ 1.3	△ 3.2
	航空	中部空港国際線	400,400 人	△ 13.5	△ 9.9	△ 13.2
		国内線合計	519,079 人	△ 8.5	△ 2.7	△ 10.3
		中部空港	484,900 人	△ 8.1	△ 2.5	△ 10.3
		県営名古屋空港	34,179 人	△ 13.9	△ 6.0	△ 9.4

運輸の動向

鉄道、減少へ

名鉄、名古屋市交通局、近鉄は対前年同月比でやや減少し全体では0.7%の減少となった。

乗合バス、減少へ

一般路線は、0.7%減となり、平成20年3月以来8ヶ月ぶりの減少となった。増加傾向の続いている名古屋市交通局も定期外旅客の減等を反映して低い伸びにとどまっている。高速路線はYALの中部空港線撤退等により先月に引き続き14.3%の大幅増となった。

貸切バス、減少続く

貸切は、団体の利用の減少等を反映して7.5%の減少となった。

タクシー、減少続く

景況の悪化等を背景として、輸送人員、輸送回数の減少傾向が拡大し、対前年比10%以上の落ち込みとなった。

国際線・国内線、減少続く

国際線は13.2%減、国内線は10.3%減と、減少が続いている。

分類		項目	実績	前年同月比(%) 9月	10月	11月
貨物輸送指標	貨物鉄道(JR)	東海支社発コンテナ	215.8 千ﾄﾝ	1.4	△ 3.5	△ 13.4
		東海支社発車扱	237.0 千ﾄﾝ	2.7	△ 4.3	△ 7.3
		合計	452.8 千ﾄﾝ	2.0	△ 3.9	△ 10.3
	特積トラック	管内(7社)	765 千ﾄﾝ	1.3	△ 5.2	△ 13.3
	宅配便	管内(7社)	18,022 千個	4.8	△ 0.3	△ 7.5
	フェリー	トラック航送台数	10,606 台	6.0	△ 0.2	△ 3.3
	普通倉庫(東海3県)	入庫高(8社)	276 千ﾄﾝ	2.8	△ 1.1	△ 14.2
		月末保管残高(同)	550 千ﾄﾝ	△ 0.9	0.8	△ 1.6
	冷蔵倉庫(名古屋地区)	入庫高(24社)	40 千ﾄﾝ	△ 1.9	△ 6.1	△ 9.5
		月末保管残高(同)	75 千ﾄﾝ	4.8	4.2	6.1
	航空貨物	国際線取扱トン数	15,254 トン	△ 20.4	△ 9.5	△ 27.0
		国内線取扱トン数	3,220 トン	△ 4.1	△ 2.0	△ 11.0
その他輸送指標	旅行業(主要5社)	管内海外旅行	8,377 百万円	△ 11.1	△ 5.1	△13.4
		管内国内旅行	17,766 百万円	△ 8.2	1.5	△4.8
	自動車登録・届出	普通乗用車	14,818 台	△ 4.4	△ 17.4	△ 33.2
		小型乗用車	17,552 台	△ 0.9	△ 7.0	△ 25.9
		乗用車計	32,370 台	△ 2.6	△ 12.1	△ 29.4
		その他トラック	4,516 台	6.2	△ 3.7	△ 33.5
		登録車合計	36,886 台	△ 1.4	△ 10.9	△ 30.0
		軽自動車	24,639 台	△ 5.4	7.6	△ 3.9
		合計	61,525 台	△ 2.8	△ 5.1	△ 21.5

運輸の動向

JR貨物、減少

コンテナ扱い及び車扱いは、景気衰退が影響し減送し全体では10.3%の減少となった。

トラック、減少

特積の輸送トン数、宅配便個数ともに対前年同月比でマイナスとなった。今月は営業日数で昨年より2日少なかったことから輸送トン数で2桁のマイナスとなった。9月はプラスであるが、営業日数が多いことによるもので、一日あたりの輸送量の対前年比はマイナス傾向が続いている。

普通・冷蔵倉庫、減少

普通倉庫は「窯業品」・「紙・パルプ」等が減少、冷蔵倉庫は「畜産加工物」・「農産品」などが減少となった。

航空貨物、減少続く

国際線は27.0%減、国内線は11.0%減と、減少が続いている。

海外・国内旅行、減少

景気低迷等の影響により、海外旅行は13.4%、国内旅行は4.8%の減少となった。

登録自動車、大幅減

普通乗用車は33.2%、小型乗用車は25.9%の減少、その他トラックは33.5%の減少、登録車全体で30.0%の減少となった。軽自動車は3.9%の減少、登録車との合計で21.5%の減少となった。

平成20年10月の運輸の動向＜速報値＞

分類		項目	実績	前年同月比(%) 8月	9月	10月
貨物	港湾運送(名古屋港10社)	輸入トン数	3,788 千ﾄﾝ	△ 2.2	2.3	△ 3.2
		輸出トン数	6,081 千ﾄﾝ	0.2	6.4	△ 3.8

運輸の動向

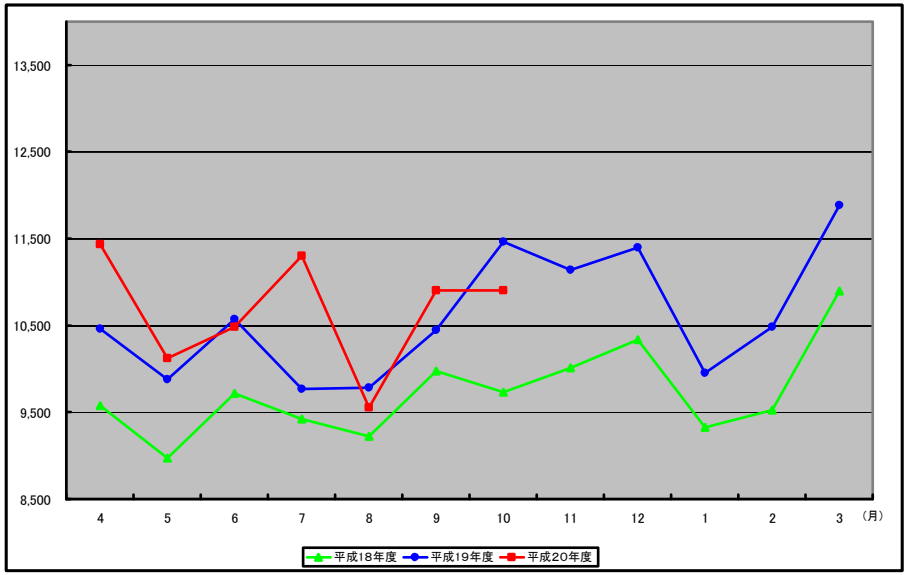
港湾運送、減少へ

前年同月比で見ると、輸出入とも低調となり積み卸し貨物(移出入を含む)全体では、4.9%の減少となった。
品目別では、実入りコンテナが1.0%の増加となったが、自動車は17.6%の減少となった。

船舶積卸し実績（20年10月）

名古屋港主要10社

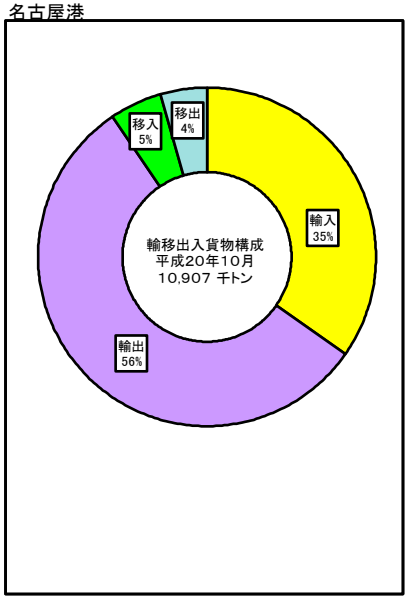
単位：千トン



月 / 年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合　計
平成18年度	9,573	8,969	9,717	9,421	9,223	9,976	9,734	10,011	10,335	9,325	9,527	10,893	116,704
平成19年度	10,458	9,877	10,573	9,765	9,781	10,443	11,466	11,139	11,400	9,952	10,485	11,882	127,221
平成20年度	11,436	10,124	10,483	11,300	9,552	10,901	10,907						74,703

輸移出入貨物構成

名古屋港

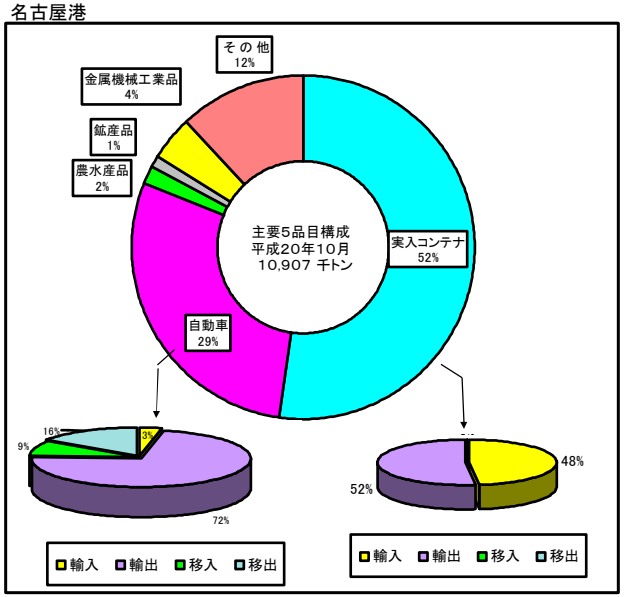


名古屋港　　単位：千トン

	20年10月	前年度比	19年10月
輸入	3,788	96.8	3,913
輸出	6,081	96.2	6,324
移入	545	89.3	610
移出	493	79.6	619
合計	10,907	95.1	11,466

主要5品目　構成

名古屋港



名古屋港　　単位：千トン

	20年10月	前年度比	19年10月
実入りコンテナ	5,697	101.0	5,640
自動車	3,159	82.4	3,832
農水産品	187	112.7	166
鉱産品	102	122.9	83
金属機械工業品	455	108.1	421
その他	1,307	98.7	1,324
合　計	10,907	95.1	11,466

名古屋港　　単位：千トン

	実　入コンテナ	自動車
輸入	2,742	104
輸出	2,955	2,291
移入	0	271
移出	0	493
合計	5,697	3,159